

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	商業簿記2 (Commercial Bookkeeping 2) 392106-14600				担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)			
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL/資格対応科目								

① 授業のねらい・概要
商業簿記1・2では、1年次配当の簿記入門の知識を前提とし、商品売買業およびサービス業における高度な簿記を学ぶ。特に商業簿記2では税効果会計、本支店会計、連結会計と高度かつ難易度の高い内容を学んでいく。本講義は事務・経理職のスペシャリストを目指すために必須の知識であり、日商簿記検定2級に対応する科目である。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
スライド資料、レジュメ等はGoogle Classroomを通じて配布する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「商業簿記1」の履修を必要とする。 「工業簿記1」「工業簿記2」と共に履修することを強く推奨する。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 税効果会計、本支店会計、連結会計の仕訳について本質的に理解し、検定試験レベルの問題が解くことができる (ii) 本支店合併財務諸表が作成できる（検定試験レベルの問題を解くことができる） (iii) 連結精算表、連結財務諸表が作成できる（検定試験レベルの問題を解くことができる）
⑥ テキスト（教科書）
滝澤ななみ(2022)『簿記の教科書 日商2級 商業簿記（第11版）』TAC出版 滝澤ななみ(2022)『簿記の問題集 日商2級 商業簿記（第11版）』TAC出版 (2022/1/20 現在では「出版予定」である)
⑦ 参考図書・指定図書
各年度に対応した予想問題集等。必要に応じて紹介する。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 取引についての本質的な理解	難易度の高い検定試験レベルの仕訳問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの仕訳問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(ii) 本支店合併財務諸表の作成	難易度の高い検定試験レベルの問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの問題について教科書を見ながらであれば、本支店合併財務諸表が完成できる	基本的な本支店会計の問題について、教科書を見ても完成させることができない。
(iii) 連結精算表、連結財務諸表の作成	難易度の高い検定試験レベルの問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの問題について教科書を見ながらであれば、連結精算表・連結財務諸表が完成できる	基本的な連結精算表・連結財務諸表の問題について、教科書を見ても完成させることができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%	20%						100%
(i) 取引についての本質的な理解	30%	10%						40%
(ii) 本支店合併財務諸表の作成	20%	5%						25%
(iii) 連結精算表、連結財務諸表の作成	30%	5%						35%
フィードバックの方法	小テストは採点して返却・解説する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
特に難易度の高い連結会計について、できるだけ多くの問題に触れることができるようにし、本質的な理解が進むようにしたい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス・税効果会計	教科書の予習と問題集の演習、商業簿記1で学修した課税所得の算定方法を復習し、どういった場合に繰延税金資産・負債が計上されるのかを理解する（授業には電卓持参）	90分
2	帳簿の締切り	教科書の予習と問題集の演習、簿記入門で学修したのから復習を進めること（授業には電卓持参）	90分
3	本支店間の取引	教科書の予習と問題集の演習、支店独立会計制度における本支店間の取引について理解する（授業には電卓持参）	90分
4	本支店合併財務諸表の作成	教科書の予習と問題集の演習、時間を取って大問を解くこと（授業には電卓持参）	90分
5	連結財務諸表とは	教科書の予習、連結財務諸表とその作成の基礎について全体像を理解しておく（授業には電卓持参）	90分
6	支配獲得日の連結	教科書の予習と問題集の演習、投資と資本の相殺消去の仕訳を理解しておく（授業には電卓持参）	90分
7	支配獲得日後1年目・2年目の連結	教科書の予習と問題集の演習、教科書の「参考」にあるタイムテーブルを使った開始仕訳の処理方法を理解しておく（授業には電卓持参）	90分
8	内部取引高と債権債務の相殺消去	教科書の予習と問題集の演習、特にダウンストリームとアップストリームにおける処理方法の違いを良く理解しておく（授業には電卓持参）	90分
9	連結精算表とは	教科書の予習と問題集の演習、特に連結精算表と連結財務諸表の関係をよく理解しておく（授業には電卓持参）	90分
10	連結精算表の解き方	教科書の予習と問題集の演習、連結精算表を完成させるまでの一連の手順を理解しておく（授業には電卓持参）	90分
11	連結財務諸表の作り方	連結精算表を完成させるまでの手続きを確認し、教科書の基本問題が解けるようにしておくこと（授業には電卓持参）	90分
12	第1問対策問題演習	商業簿記1の範囲も含め、全ての仕訳について教科書別冊の仕訳パターン集を使い、その内容を理解して	90分

		おくこと。	
13	第2問対策問題演習	特に、商品売買、固定資産、有価証券について一連の流れを理解しておくこと。また、株主資本等変動計算書についても記入方法を理解しておくこと。	90分
14	第3問題対策問題演習	第3問は商業簿記1および2の全ての集大成である。全ての範囲について本質的に理解しているかどうか確認しておくこと。	90分
15	まとめ	商業簿記1の範囲も含め、全ての内容について疑問点等があれば挙げておき、授業中に質問ができるように準備しておくこと。	90分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型ALを採用する。適宜小テストや課題等を行い、その解説を行うことで知識の定着を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性